



※施設の所在地、電話番号は、白石4ページの施設一覧をご覧ください。



▲戦争体験を語る堤繁雄さん。東京大空襲で被災、その後徴兵され、戦後シベリアに抑留された。(10月21日、本通小学校)



▲北海道ノーモア・ヒバクシャ会館の館長として、自身の被爆体験を語る活動を続ける越智晴子さん。(8月29日、北白石小学校)

【北海道ノーモア・ヒバクシャ会館】

所在地 平和通17丁目北
電話 866-9545
開館時間 午前10時～午後2時(入館無料)
休館 土曜、日曜(11～6月)、祝・休日、年末年始

しろっぴーノート

平和への願いを語り継ぐ 「白石区平和事業」

戦争を起こしてはならないという強い思いが、しっかりと子どもたちに引き継がれました。



昭和16年12月8日、当時の日本海軍は、ハワイ・オアフ島の真珠湾でアメリカの太平洋艦隊を急襲。日本がアメリカなどとの全面的な戦争に入った12月、昭和20年に原子爆弾が投下され終戦を迎え

た8月とともに、戦争の時期を思い返す機会が多くなります。札幌市は、核兵器の廃絶と世界平和の実現を市民の皆さんと一緒に考えていきたいという願いから、平成4年に「平和都市宣言」を行い、その精神を広く知っていただくために取り組んでいます。この一環として各区では、地域の語り部の方から子どもたちへ戦争体験を語り継いでいただく事業を平成20年度から進めてきました。

白石区でもこれまでに、兵士として戦争に赴いた方や、中国で終戦を迎えて日本に引き揚げた体験のある方、あるいは子どもたちのところに戦時下の札幌で過ごした方など10人に、小中学校や児童会館などで、戦地での過酷な体験や、いわゆる銃後の暮らしの様子などについて、子どもたちを前に語っていただきました。体験したことはそれぞれ違っても、語り部の皆さんに共通していたことは、「二度と戦争を起こしてはならない」という強い思いです。

私たちは、戦争こそ地球環境を破壊する最大のものであり、平和にまさる市民福祉はないとの考えのもとに、人類がひとしく平和のうちに暮らせる世界が実現されることを願っています。

私たち札幌市民は、日本国憲法がかかげる平和の理念に基づき、非核三原則を守れることを誓い、信義と公正を重んずる全世界の市民と相携えて世界平和の実現を望みつつ、ここに札幌市が核兵器廃絶平和都市であることを宣言します。

札幌市平和都市宣言

【平成4年3月30日】

戦争のない平和な世界を築くことは、人類共通の願いです。この切なる願いにもかわらず、平和に対する脅威、特に核兵器の脅威から、人類は今なお自由ではありません。

私たちは、戦争こそ地球環境を破壊する最大のものであり、平和にまさる市民福祉はないとの考えのもとに、人類がひとしく平和のうちに暮らせる世界が実現されることを願っています。

広告

